

加害の事実に向き合う大切さを実感して

—10月13日 広島県安野発電所で中国人強制連行を学んで

亀島山地下工場を語りつぐ会 土屋 篤典

亀島山地下工場を語りつぐ会では毎年、他県の戦争遺跡に学ぶ見学ツアーを実施しています。戦争遺跡は戦争の語り部だと言われても、語り部としての魂を吹き込むのは、私たちです。では、どうすればいいか考えたら、被害やいきさつはもちろんです。加害の事実をどう語りついでいくか学びたいと考えました。ネットを検索したところ「広島安野・中国人被害者を追悼し歴史を継承する会」(以下「継承する会」)のホームページに行きつきました。地元の岡山県でも三井鉱山日比精錬所に中国人が強制連行されたことを上羽修氏が、事実を掘り起こし、体験者への聞き取りなど調査研究をおこない、その成果をまとめています。その論稿の中に安野発電所の名前が出ていました。改めて現地を訪れて加害の事実をどう語りつぐか学ぼうと考えこのツアーを企画しました。当日は18名の参加者があり、大変充実したツアーとなったことについて、継承する会の川原洋子様、土屋信三様、中国電力の善様、諸住様に改めて感謝申し上げます。

中国電力安野発電所「安野中国人受難之碑」と坪野貯水槽。この碑は中国電力安野発電所の一角にあつて、特徴は、犠牲者を慰霊するものでないことです。碑には坪野に強制連行された360名の名前が刻まれています。そのうち29名が命を落としました。この事実を後世に伝えるために、碑の高さが360cm、台座の高さが29cmに設定して伝えているという工夫に驚きました。その後坪野貯水槽がある発電施設に登りました。この坪野貯水槽は滝山川の土居取水口から山の中に掘られた8kmの導水トンネルの出口にあたり、直径は約3m、強制連行された中国人によって掘られました。急な坂道を登り、現場を歩

き体感することで当時の中国人の気持ちに少しでもふれることができた一瞬でした。

善福寺での学習会では、中国人強制連行や西松裁判を藤井住職、川原様の講話、DVD「50年目の叫び—広島・安野への中国人強制連行の真相」を視聴して、中国側の事実の伝え方、天津にある在日殉難烈士勞工紀念館の存在やDVDの中で父親を連行された家族の話を見て、その遺族の人が言った「過去のことですませることはできない。どうして学校に行けなかったのか、日本軍が中国を侵略しなければこんなことにはならなかった」という言葉になぜ加害の事実と向き合わなければならないか、語りつがねばならないか、その答えが見えた思いがしました。

香草中国人收容所跡、土居收容所跡・取水口。実際に收容所があった場所に行きました。そこで、宋継堯さんという作業中トロッコを操作していたところ脱線し、その事故で両目を失明した中国人のお話を聞きました。宋さんは16歳で強制連行され、事故で失明し、戦後中国に帰っても苦勞したそうです。その人生をとってみても日本のおこなった侵略行為によって人生を変えられてしまった人がいるという重い事実を嘯みしめるしかなかったです。

ツアーを通して、加害の事実を語りつぐことは、先ず日本が中国をはじめアジア諸国を侵略した事実を受け止め、その行為で多くの人々の人生が変えられたことと向き合い、後世にその事実と戦争は二度としてはならないと伝えることであるということ改めて心に刻みました。今後の活動に生かしていきたいです。